

第3章 木材価格

1 木材価格の形成要素

木材の価格はさまざまな要素により変動します。例えば、全国的規模の要因は以下のようなものが考えられます。

- 住宅の需要動向（製材用材の約8割が建築用材。新設住宅着工戸数は平成21（2009）年に80万戸を割ったが、平成25（2013）年は98万戸まで回復。令和元（2019）年は91万戸）
 - 季節変動
 - 紙・パルプの需要動向（木材需要の4割を占め、外材への依存度が高い）
 - 為替の動向（為替の変動が直接的に外材価格に反映）
 - 関連制度の状況（平成22（2010）年10月 公共建築物等木材利用促進法の施行等）
 - 災害発生状況（平成23（2011）年3月 東日本大震災等）
- また、地域的・個別の要因としては、以下のようなものが考えられます。
- 地域の経済状況
 - 地域の関連会社の新設、倒産等の状況
 - 効率化による経費節減等

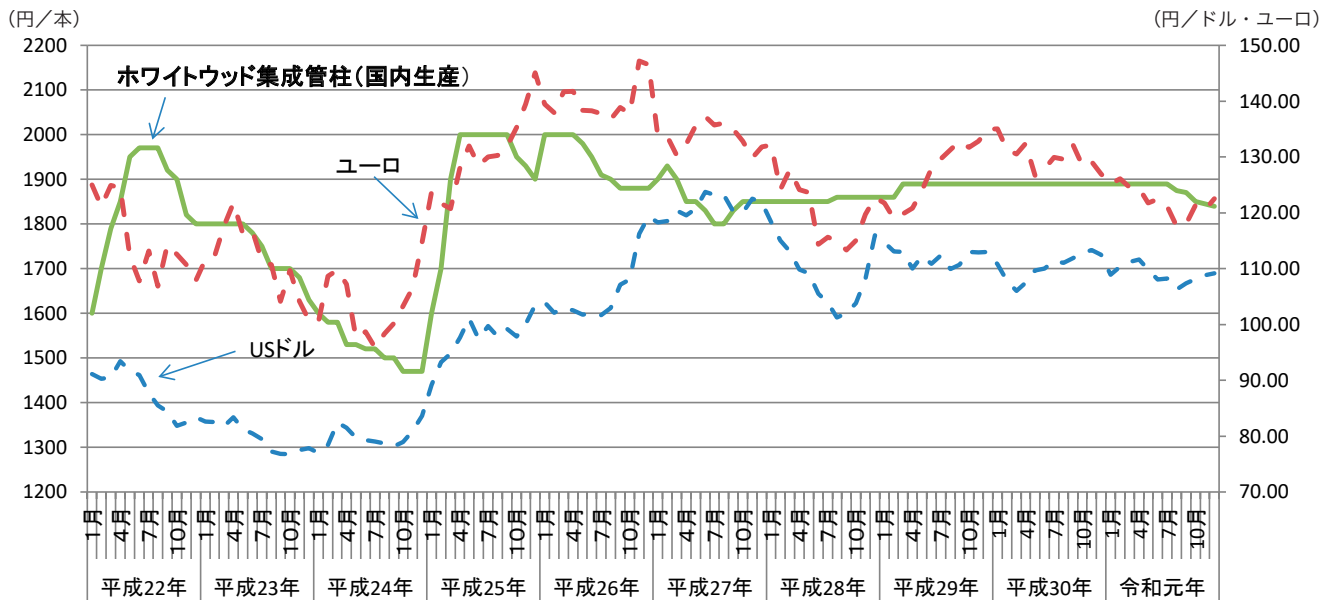


図8-15 木材製品価格と為替の推移

資料：木材建材ウイクリー
注：ホワイトウッド集成管柱は市場置き場渡し

2 素材価格

素材価格は、長期的には下落傾向にありましたが、平成21(2009)年以降は、ほぼ横ばいで推移しています。ヒノキ中丸太の価格では平成29(2017)年においてピーク時の約4分の1まで下がっています。

今後は需給が相当タイトにならない限り、近い将来においては昭和期の価格レベルにはならないと思われることから、供給側としてはコストの低減など効率化を図る必要があります。

素材の価格は、時期、地域などにより異なり、それぞれの地域の素材価格の情報を的確に収集し、業務に活用することが求められます。

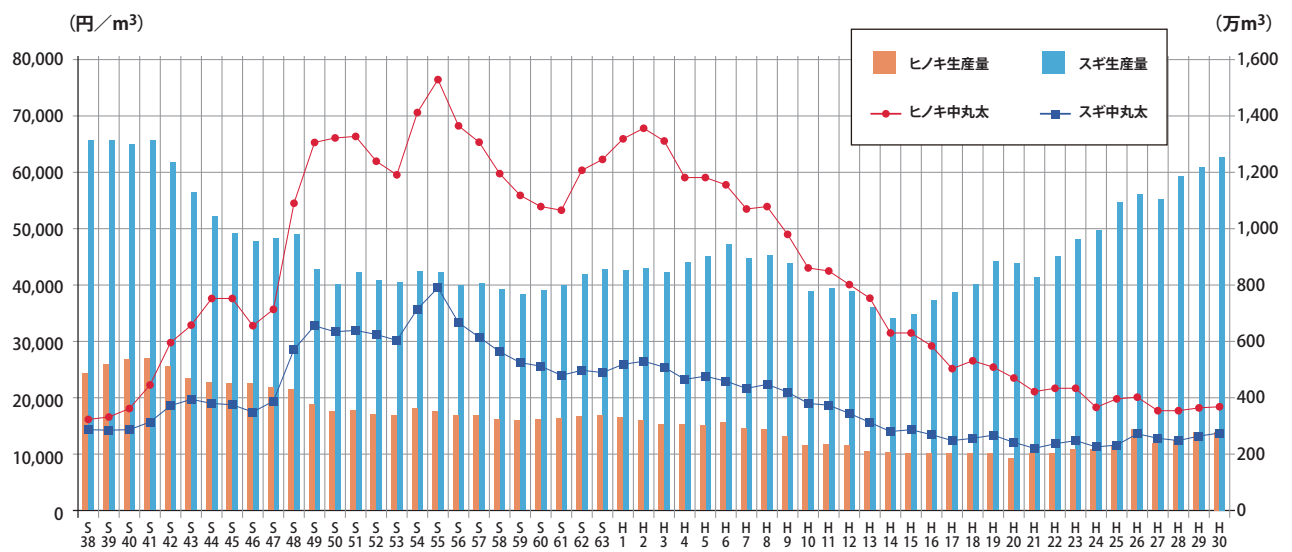


図8-16 国産材素材価格と素材生産量

資料：農林水産省「木材価格統計調査」、「木材統計」

注：スギ中丸太(径14～22cm、長さ3.65～4.0m)、ヒノキ中丸太(径14～22cm、長さ3.65～4.0m)のそれぞれ1㎡当たりの価格

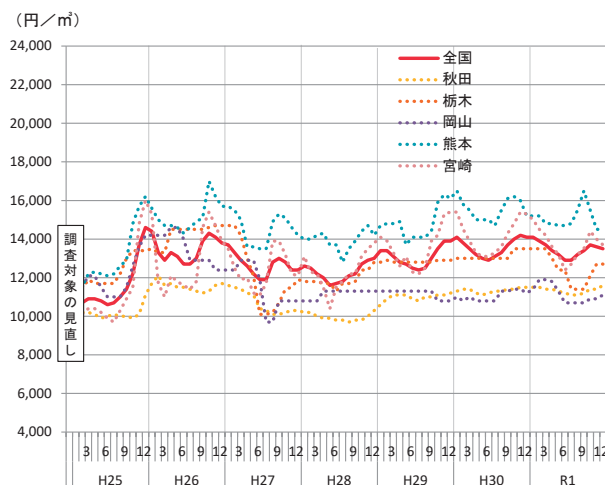


図8-17 スギ中丸太価格の動向

資料：農林水産省「木材価格」

注：農林水産省「木材統計」は、平成25年1月より調査対象等の変更がありデータは連続しない

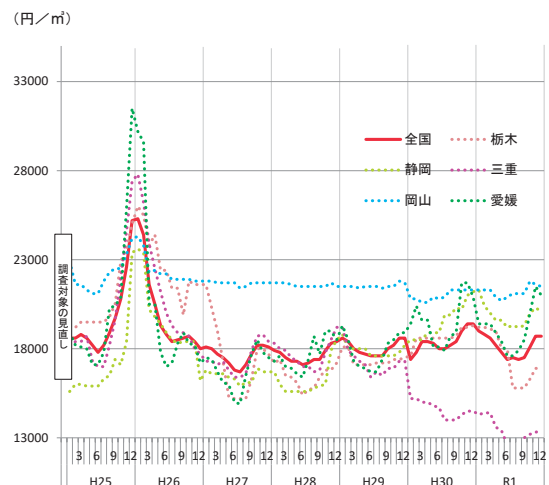


図8-18 ヒノキ中丸太価格の動向

資料：農林水産省「木材価格」

注：農林水産省「木材統計」は、平成25年1月より調査対象等の変更がありデータは連続しない。平成30年7月の岡山県は仮の価格である

3 製品価格

素材の価格は製品価格と連動する傾向があることから、日頃から製品価格の動向に注目しておく必要があります。国産材の製品価格は、為替の直接の影響を受ける輸入材の製品価格よりも変動が緩やかな傾向があります。

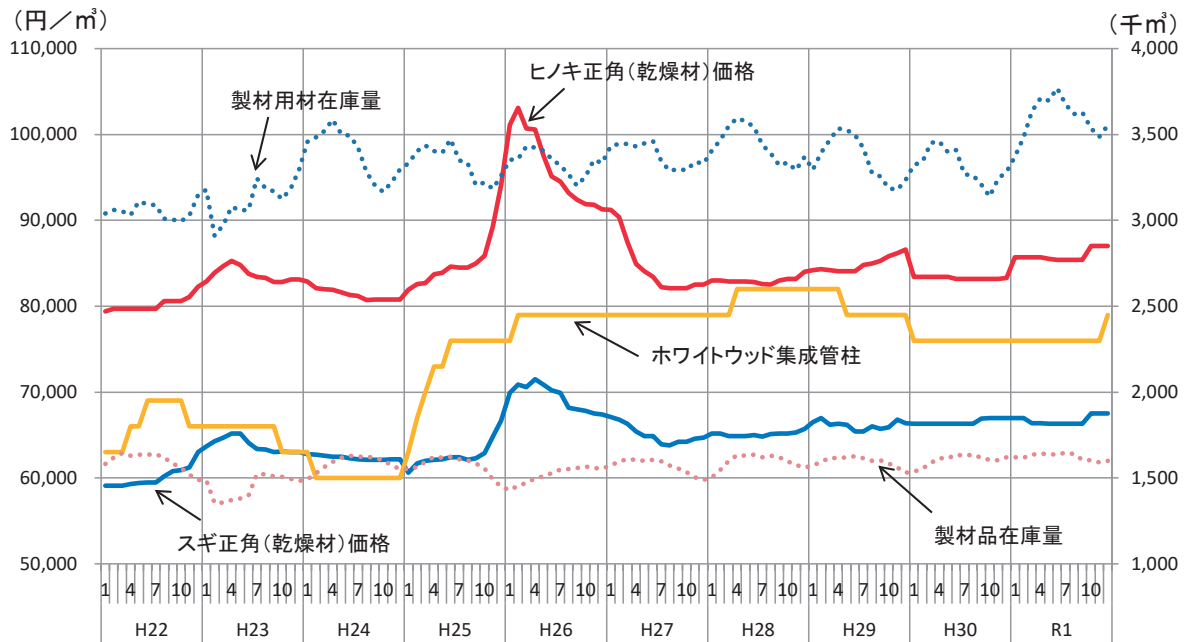


図8-19 製材品生産量等と製品価格等の推移

資料：農林水産省「木材価格」

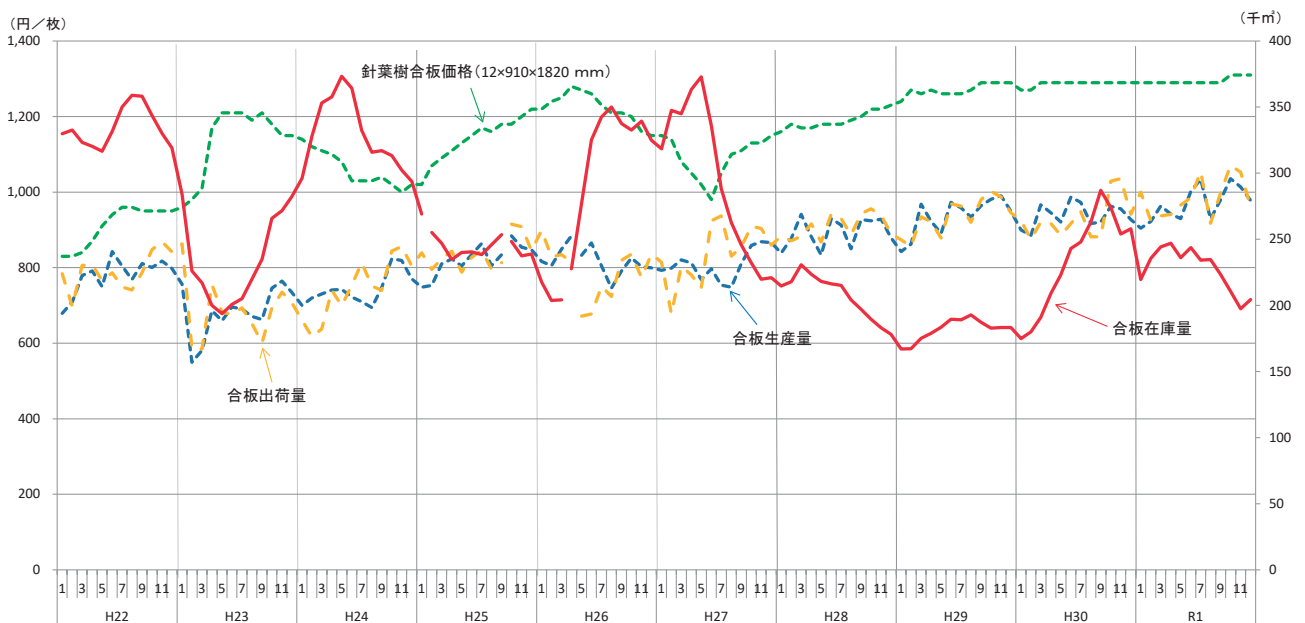


図8-20 合板価格等の推移

資料：農林水産省「木材需給報告書」「合板統計」「木材価格」

注1：平成23年2月～9月分の全国値は、岩手県及び宮城県分の取りまとめが行えないため、これらを含まない数値である

注2：平成23年10月～平成24年3月分の全国値は、岩手県分の取りまとめが行えないため、これを含まない数値である

表8-2 製品価格情報の参考となるツール(新聞、情報誌等)

参考となるもの	ツール	備考
木材新聞	新聞	(株) 日刊木材新聞社発行、週5刊
林経新聞		(株) 林経新聞社発行、週2刊
木材建材ウイクリー	雑誌	(株) 日刊木材新聞社発行、週刊
農林水産省「木材価格」	インターネットサイト	農林水産省ホームページ http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokuryu/kakaku/index.html

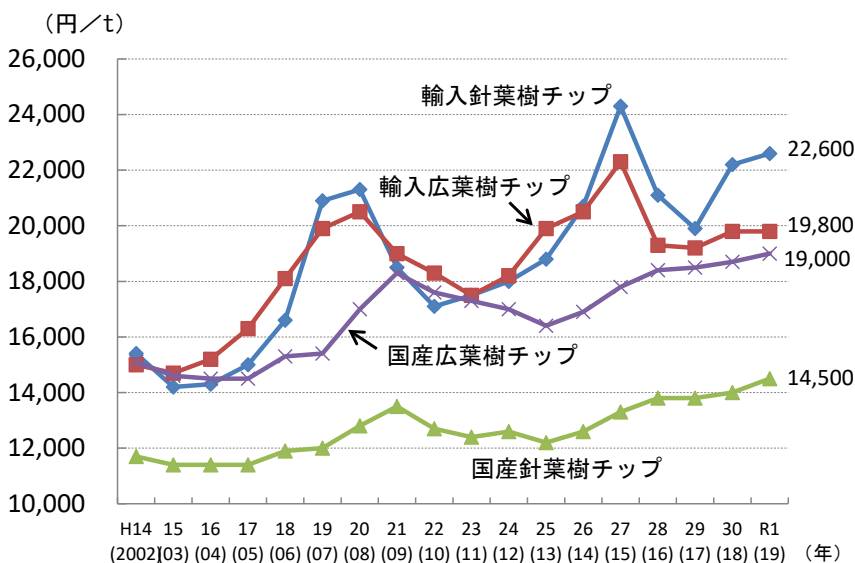
4 チップ価格

国産木材チップ(紙・パルプ用)の価格は、平成19(2007)年以降、製材工場からのチップ原料の供給減少等により上昇傾向にありましたが、平成22(2010)年以降は、チップ生産量の増加等により、価格は下落しました。その後平成26(2014)年以降は上昇しており、令和元(2019)年の国産針葉樹チップ価格は14,500円/t(概数値)、国産広葉樹チップ価格は19,000円(概数値)/tでした。これらのチップ価格の上昇の要因として、木質バイオマス発電施設が各地で稼働し、木材チップ全体の需要が増加していることが考えられます。

また、輸入木材チップの価格は、中国での紙需要の増加を背景に上昇してきましたが、リーマンショックを機に、平成21(2009)年には下落に転じました。

平成25(2013)年以降は円安方向への推移の影響等もあり上昇していましたが、平成28(2016)年には円高方向への推移の影響を受け下落しました。令和元(2019)年の輸入針葉樹チップ価格は、22,600円/t(速報値、前年比+200円/t)、輸入広葉樹のチップ価格は19,800円/t(速報値、前年比-100円/t)でした。

パルプ・チップ原料は、大量に安定供給される輸入材が約8割を占めています。一方国産材は、針葉樹を中心に生産されていますが、安定的に供給するためにロットをとりまとめるなどの工夫が必要です。輸入材のパルプ・チップの価格は国産材チップより高い傾向にあります。



資料：農林水産省「木材価格」、財務省「貿易統計」
 注1：国産チップ価格はチップ工場渡し価格、輸入チップ価格は着港渡し価格
 注2：それぞれの価格は絶対トン当たりの価格

図8-21 紙・パルプ用木材チップ価格の推移